

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。</li> <li>2. 学校化社会を業績原理とジェンダーの観点から理解させる。</li> <li>3. カウンセリングマインドをスキルと背景から考えさせる。</li> <li>4. 教育評価をめぐるいくつかの類型論を比較検討させる。</li> <li>5. 教育そのものの常識と定義の違いを明らかにする。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生が学習した内容を教育学の基本的概念で反省的に振り返ること。</li> <li>2. 教育学の理論のうち保育や教育に役立つ部分を学生が活用できること。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング</p> <p>第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？</p> <p>第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史</p> <p>第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</p> <p>第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ</p> <p>第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？</p> <p>第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるか？</p> <p>第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターの実践</p> <p>第9回 カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返って</p> <p>第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？</p> <p>第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括という三段階</p> <p>第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育</p> <p>第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として</p> <p>第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント</p> <p>第15回 レポートの返却と成績評価の還元</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書を使いますが各自でも読んでください。</li> <li>2. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は講義を中心に進めます。</li> <li>2. 後半は活動を取り入れます。</li> <li>3. 途中で映像も折り込みます。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（コメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）</li> </ol>						
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年、ISBN:978-4-480-42460-0						
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯学習社会の理解						
授業の概要	キーワード：生涯学習の概略理解 1960年代中頃から新しい教育理念として提唱されてきた生涯学習について理解を深める。生涯学習社会の構築を目標に、その歴史、生涯を通して学ぶことの必要性を理解する。						
到達目標	生涯学習および社会教育の本質と意義を理解する。人間の成長・発達に従って必要な学びが変化していくことを理解する。成人期、老年期にも学ぶことは必要であることを理解し、どのような教育施設があるのかを知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史・理念・目標の理解 第2回 生涯学習と家庭教育・社会教育との関連性について 第3回 生涯学習関連施策の動向について 第4回 社会教育の意義について 第5回 社会教育の内容・方法・形態について・諸外国との比較 第6回 社会教育指導者の育成とその役割について 第7回 社会教育施設の概要 第8回 s号外学習の情報の提供と学習相談の意義および評価について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：配布したプリントを読んでおくこと 授業後：ノートを整理する。疑問点、質問事項を整理する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%、レポート20%、平常点20%。						
教科書	指定しない						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	後期 前半	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~3	単位数	1.0
授業のテーマ	生涯学習についての概説						
授業の概要	<p>キーワード：生涯学習社会の理解</p> <p>生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。</p>						
到達目標	<p>生涯学習、および社会教育の意義を理解する。生涯学習の歴史的経緯を知る。人間の成長・発達の視点から教育の必要性を理解すると共に、有効な学習方法や学習のニーズを理解する。老人大学をはじめとする様々な社会教育施設を知る。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標</p> <p>第2回 学校教育と生涯学習の関連性・生涯学習の現状</p> <p>第3回 生涯学習の意義と特性・生涯学習社会という概念</p> <p>第4回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携</p> <p>第5回 日本と外国の生涯学習のあり方の相違</p> <p>第6回 生涯学習の内容・方法・形態について</p> <p>第7回 生涯学習の機会の多様化と拡大化</p> <p>第8回 生涯学習振興施策の立案と推進に関すること</p> <p>第9回 生涯学習に関する社会教育行政について・一般行政との関連について</p> <p>第10回 自治体の行財政制度と教育関連法規について</p> <p>第11回 様々な社会教育の内容・方法・形態</p> <p>第12回 社会教育施設及び生涯学習関連施設の紹介とその管理と運営</p> <p>第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について</p> <p>第14回 社会教育指導者の育成とその役割について</p> <p>第15回 まとめ・生涯を通して学ぶことの意義の確認</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前 前もって配布した資料等を読んでくること。</p> <p>授業後 ノートを整理し授業内容を復讐すること。質問や疑問点があれば、次の授業で質問してください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60%、レポート20%、平常点20%						
教科書	特にしていません。						
参考書	授業の中で紹介します。						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	視聴覚教育メディア論						
担当教員	高久 智広						
学期	前期 後半	曜日・時限	土曜1～2	配当学年	2～4	単位数	1.0
授業のテーマ	博物館・美術館における視聴覚メディアの活用法とメディアリテラシー						
授業の概要	近年、デジタル技術の発展と革新は著しく、博物館においても展示や教育普及活動にマルチメディアをはじめとする視聴覚メディアが活用されてきている。視聴覚機器や技術の発達ที่著しい現代において、それらの活用を考える上で、視聴覚メディアの発達の歴史を知り、その特性を理解することは不可欠である。講義では、視聴覚教育とメディアについて理解し、学芸員として、現代の博物館における視聴覚メディアの活用方法を考え、さらにメディアに関わる判断力を身につける内容とする。						
到達目標	視聴覚教育メディアの意義と学習支援方法、博物館における情報の意義と活用方法、および情報発信の課題等について理解し、メディアに関わる判断力を身につける。						
授業計画	第1回 ガイダンス・「視聴覚教育メディア論」とは 第2回 I 視聴覚教育・視聴覚メディアとは 第3回 II 視聴覚教育メディアの種類と機能 第4回 II 視聴覚メディアの種類2 第5回 III 博物館における視聴覚メディアの活用1 第6回 III 博物館における視聴覚メディアの活用2 第7回 IV 情報モラルとメディア・リテラシー 第8回 博物館の展示・教育普及における視聴覚メディアの活用案 (課題レポート発表)						
授業外における学習(準備学習の内容)	博物館・美術館での視聴覚メディアの活用に視点をおいて、できるだけ多くの館を見学してください。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点(欠席の場合は減点。出席点を重視)、レポート(課題に従い小レポートを作成・提出、授業内でレポートの発表を行う)。平常点60%・レポート40%						
教科書	特に指定しません。プリント配布。						
参考書	視聴覚メディアと教育 佐賀啓男編(樹村房) 博物館映像展示論—視聴覚メディアをめぐる— 青木豊(雄山閣)						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	三好 唯義						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識の獲得						
授業の概要	博物館の基礎知識と現状の把握。 博物館の基本的な活動として、資料の収集と保管、展示や普及などが挙げられる。しかし現在の博物館は社会教育施設として、生涯学習の推進、「学社融合」「博学連携」の取り組みなど、多様な役割が期待されている。また国立博物館などの独立行政法人化、指定管理者制度の導入など、博物館を取り巻く社会環境や経済情勢は近年大きく変化している。博物館を自らの問題とするために、講義では基礎的な概念と知識、現在における課題と問題点を取りあげ、その考察と把握に努める。						
到達目標	博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館の目的と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1回) 博物館とは</li> <li>(2回) 博物館の基本的機能その1 (調査・研究)</li> <li>(3回) 博物館の基本的機能その2 (収集・保存)</li> <li>(4回) 博物館の基本的機能その3 (展示)</li> <li>(5回) 博物館の基本的機能その4 (博物館教育)</li> </ul> </li> <li>2. 博物館の歴史 <ul style="list-style-type: none"> <li>(6回) 海外の博物館史</li> <li>(7回) わが国の博物館史</li> </ul> </li> <li>3. 博物館倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>(8回) 博物館の組織</li> <li>(9回) 博物館と博物館専門職の倫理</li> </ul> </li> <li>4. 博物館関係法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>(10回) 博物館法ほか</li> </ul> </li> <li>5. 生涯学習と博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>(11回) 博物館と生涯学習</li> <li>(12回) 博物館と地域社会</li> <li>(13回) 博物館とボランティア</li> </ul> </li> <li>6. これからの博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>(14回) 日本の博物館の現状と課題</li> <li>(15回) 「博物館の望ましい姿とは」</li> </ul> </li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。 講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価(出席、態度、発表、課題レポート提出等)70%と、期末レポート30%にて、総合的に評価する。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介します。 新編 博物館学 倉田公裕・矢島國雄著(東京堂出版) 博物館学ハンドブック 高橋隆博他編著(関西大学出版会)						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館学各論						
担当教員	問屋 真一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	博物館資料、博物館経営の研究						
授業の概要	博物館の資料論として主として人文系資料の収集・整理・調査研究、保存、活用について学び、次いで情報論、経営論として、博物館を取り巻く近年の状況を踏まえた今日的課題について理解する。						
到達目標	博物館の人文系資料の収集・保存・調査・活用、また今日の博物館が抱える制度的、経営的諸問題に関する基本的事項を知り、市民にとってどのような博物館が望ましいのか、考察することができるようになる。						
授業計画	<p>前期 博物館資料論</p> <p>第1回 博物館の基本的機能</p> <p>第2回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第3回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第4回 人文系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>第5回 人文系資料の保存と修復</p> <p>第6回 人文系資料の保存と修復</p> <p>第7回 自然科学系資料の収集の特徴</p> <p>第8回 自然科学系資料の収集の特徴</p> <p>第9回 博物館資料の活用 常設展示</p> <p>第10回 博物館資料の活用 常設展示</p> <p>第11回 博物館資料の活用 企画展示</p> <p>第12回 博物館資料の活用 企画展示</p> <p>第13回 博物館資料の活用 教育普及</p> <p>第14回 博物館資料の活用 教育普及</p> <p>第15回 資料論のまとめと試験等</p> <p>後期</p> <p>第1回 館活動の情報化、ネットワーク</p> <p>第2回 知的財産権と博物館</p> <p>第3回 博物館経営とは何か</p> <p>第4回 博物館の組織と学芸員</p> <p>第5回 博物館の組織と学芸員</p> <p>第6回 博物館の施設と設備</p> <p>第7回 博物館の施設と設備</p> <p>第8回 博物館の行財政 制度と施策</p> <p>第9回 博物館の行財政 国立館</p> <p>第10回 博物館の行財政 国立館</p> <p>第11回 博物館の行財政 公立館</p> <p>第12回 博物館の行財政 公立館、私立館</p> <p>第13回 博物館評価と市民サービス</p> <p>第14回 博物館評価と市民サービス</p> <p>第15回 情報論経営論のまとめと試験等</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。また授業での得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験またはレポートに加え、出席状況、提出物や授業態度、意欲などの平常点を重視する。						
教科書	適宜プリントを配布する。						

参考書	講義中に適宜紹介する。
-----	-------------

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	宗像 衣子・熊田 司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	博物館学芸員課程の4年間の総まとめ						
授業の概要	<p>本科目は、夏期の館園実習を中心にして、その事前指導と事後指導（講義・演習含む）、実務実習及び見学実習（日曜日）で構成される。夏期館園実習は各学生の専門領域関心分野に関わる実習館を用意する。事前に十分に各館について全員で学び、調査発表等によって互いに知見を共有し、各々一定の実践的能力を備える。下記シラバスは、館園実習（夏期5～6日の終日。後記参照。）を除く。  （A：担当 宗像先生、B：担当 熊田先生）  （この科目以外に、任意設定科目：比較文化I A B、考古学で、関連学外研修・実習あり。）</p>						
到達目標	博物館学芸員課程の4年間の学修の総まとめの意味をもつ科目であり、3年次までに博物館課程の、実習を除く必修科目、必要な選択必修科目をすべて修得し、かつ一定の成績基準を収めた学生のみ履修が認められる。多様な館種の実状、そこでの学芸員の仕事を把握し、実践的能力を養うことで、学科の学びに理論的並びに具体的に関連付けられた課程としての集大成を目標とする。（12人程度の少人数クラスで充実した個別指導）						
授業計画	不定期の授業時間になるが、まだ未定部分が多いので、登録を許可されたものは、4月の第一回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容についての説明を受けること。						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と実習						
評価基準と評価方法	平常点80%、レポート等20%						
教科書	なし						
参考書	なし						